



National Museum of Korean Democracy



民主化運動記念館

日本語



民主化運動記念館は、かつての国家暴力の象徴である南営洞対共分室があった場所に建てられた施設であり、場所の歴史性を保存しながらも展示・記録・教育空間及び民主広場を通じて民主主義の価値を体験できるように構成されている。

既存の建築物と新たに造られた空間がつながっており、来館者が過去の記憶に向き合い、民主主義と人権の意味について振り返るように促す。

ここは展示と教育、参加が組み合わさった複合的空間として、民主化運動の歴史を見つめ直し、現在の民主主義について考え、未来の価値へと受け継いでいく場所である。

施設案内

① M1記念館

② M2 記念館 (旧南営洞対共分室)

③ E 教育棟

④ 民主広場

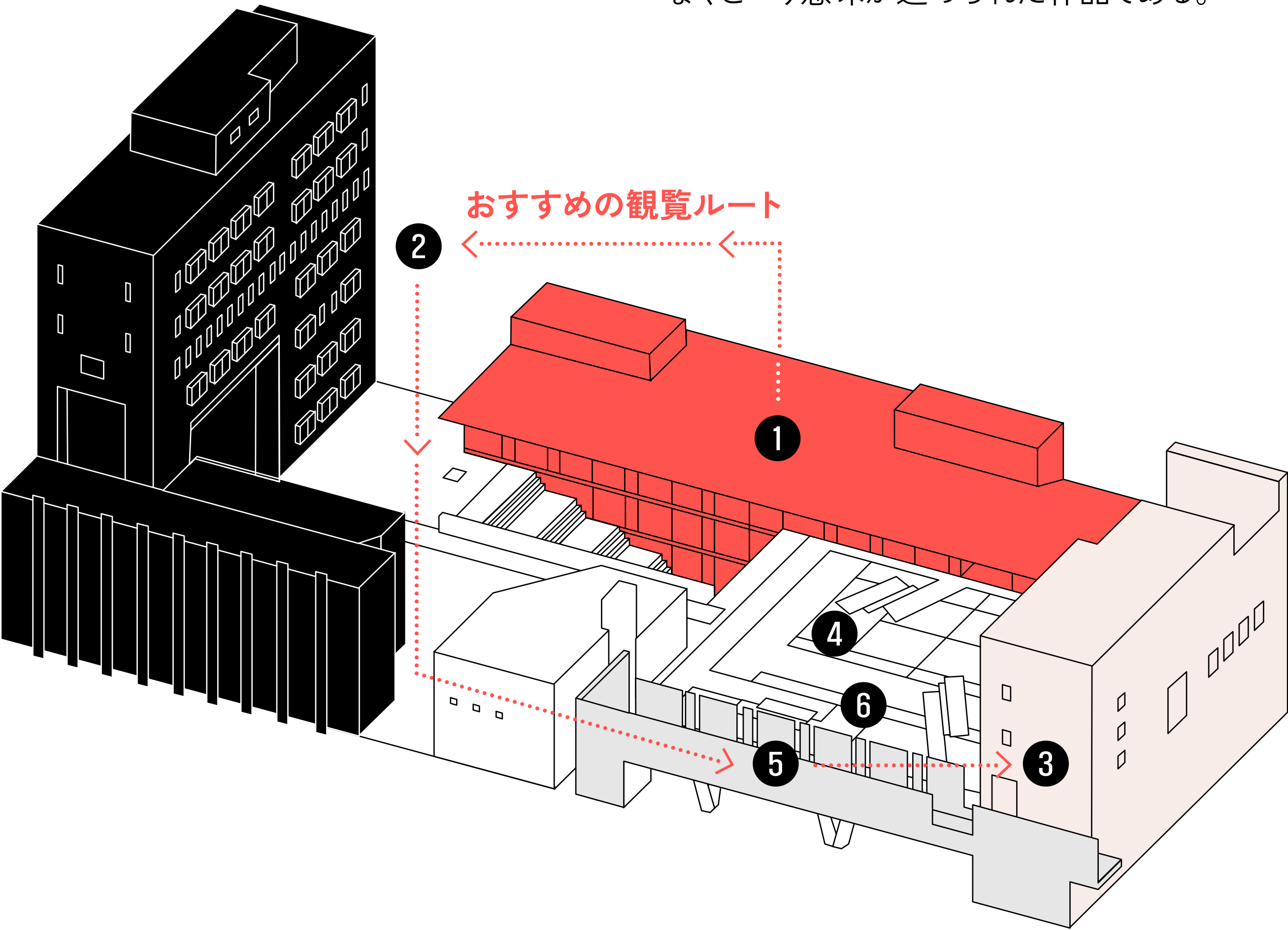
以前テニスコートだった場所に造られた開かれた空間であり、天窗から地下展示場まで光が差し込む。

⑤ 癒しの道

対共分室の縦に細長い窓の形を適用することで、場所の歴史的な記憶を表現した空間である。

⑥ 開かれた扉

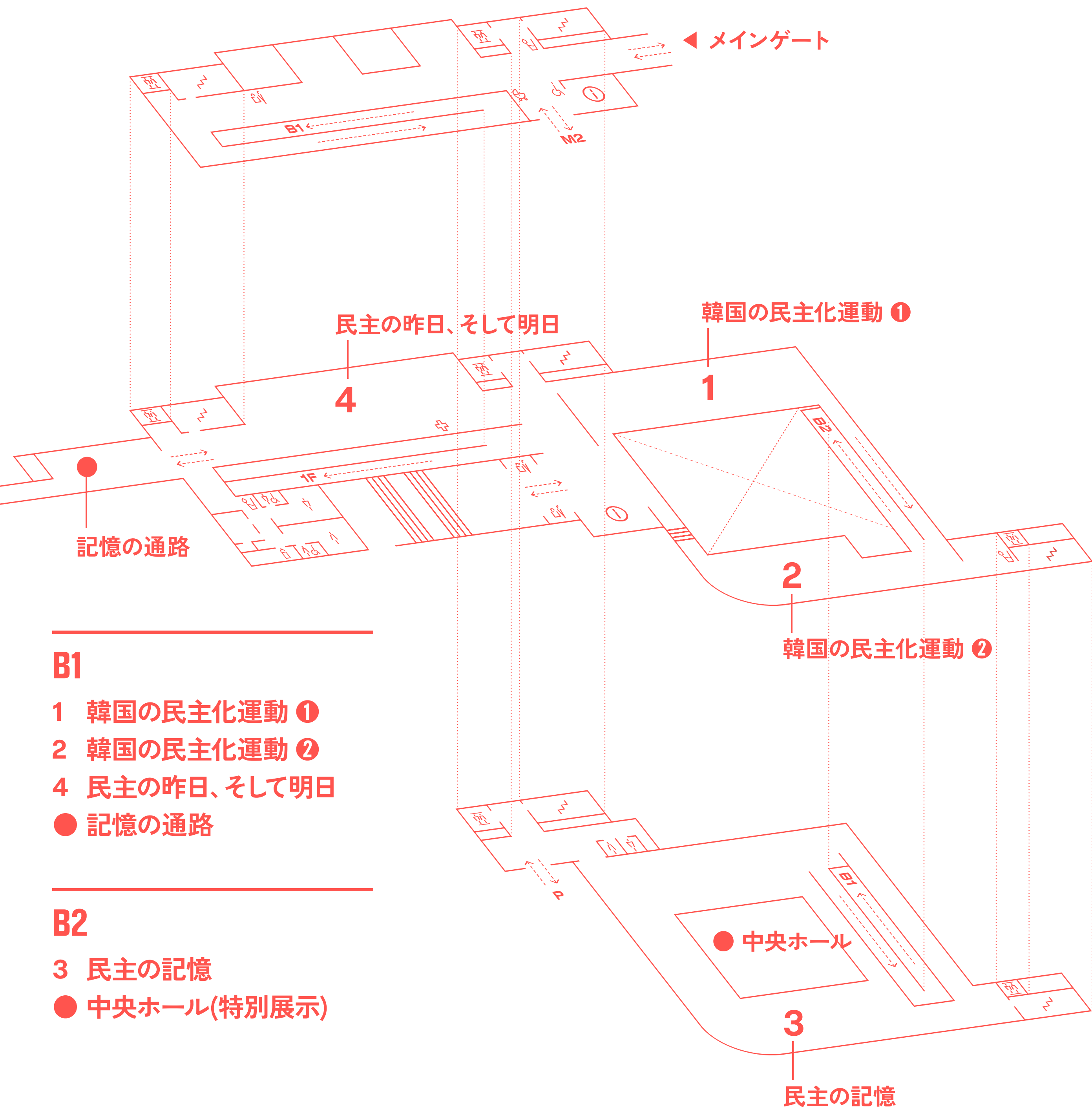
旧対共分室の鉄門を活用し、過去と現在をつなぐという意味が込められた作品である。



- ① インフォメーション
- エレベーター
- 階段室
- P 駐車場
- 水飲み場
- 女性トイレ
- 女性バリアフリースイートイレ
- 男性トイレ
- 男性バリアフリースイートイレ
- ロッカー
- 医務室
- 車いすの貸し出し
- ベビーカーの貸し出し

1F

◀ メインゲート



B1

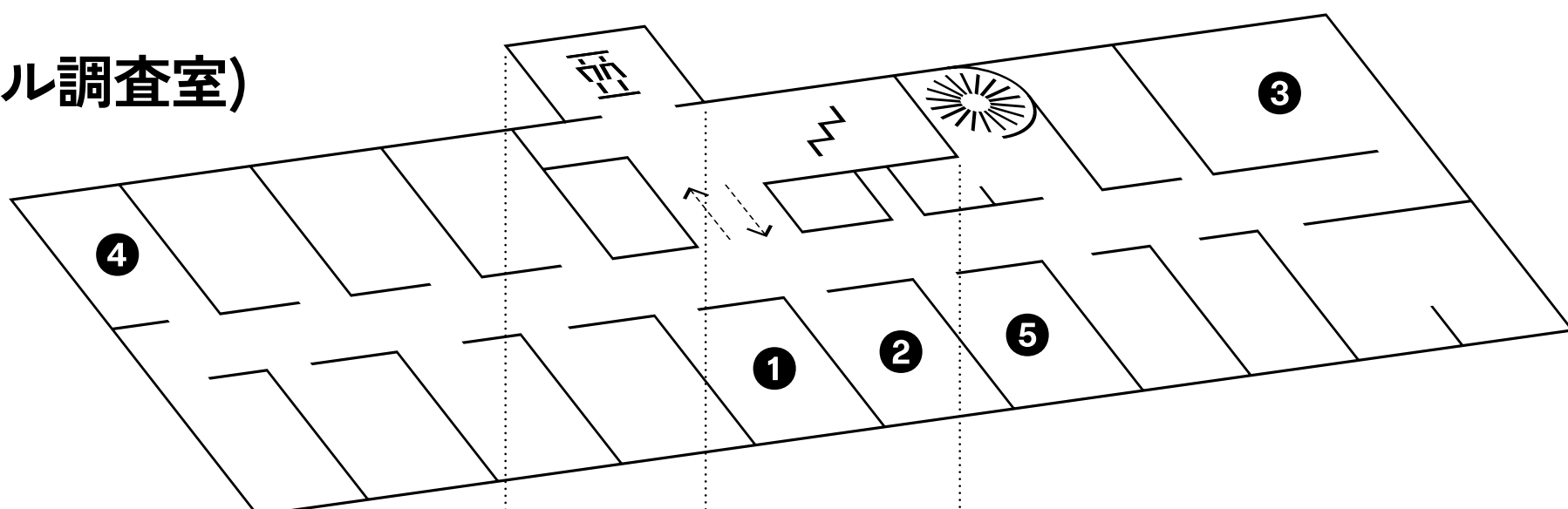
- 1 韓国の民主化運動 ①
- 2 韓国の民主化運動 ②
- 4 民主の昨日、そして明日
- 記憶の通路

B2

- 3 民主の記憶
- 中央ホール(特別展示)

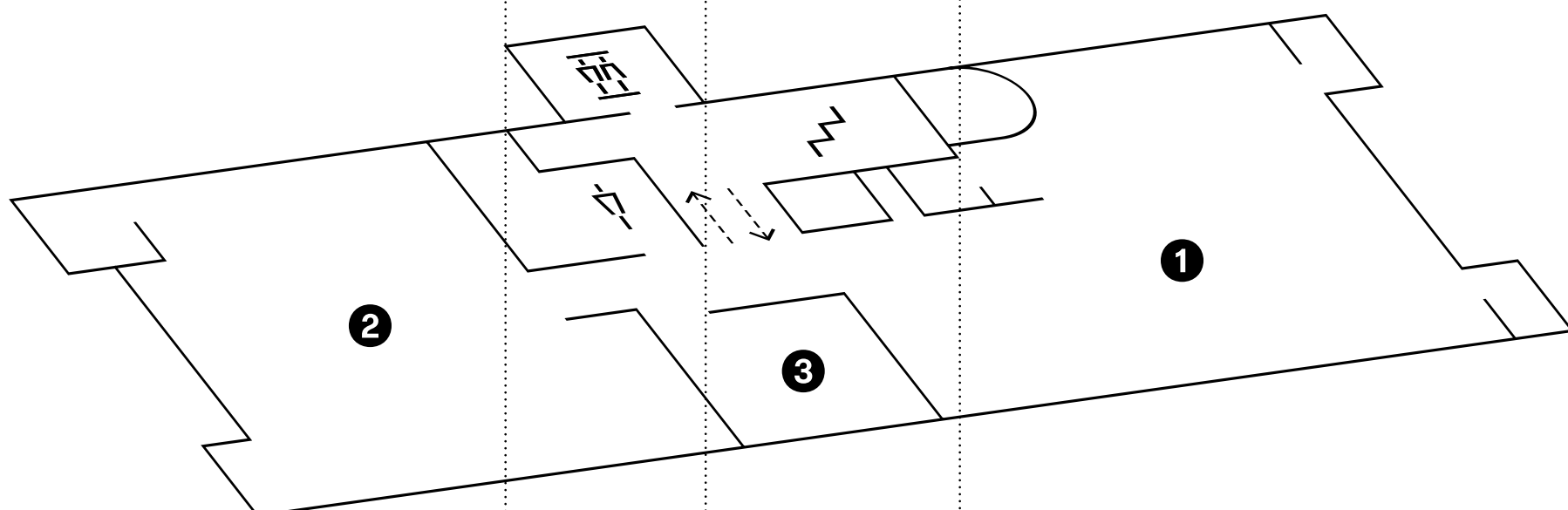
5F 調査室

- ① 509号室(パク・ジョンチョル調査室)
- ② 510号室(マイクの部屋)
- ③ 515号室
- ④ 504号室(赤い部屋)
- ⑤ 511号室(黄色い部屋)



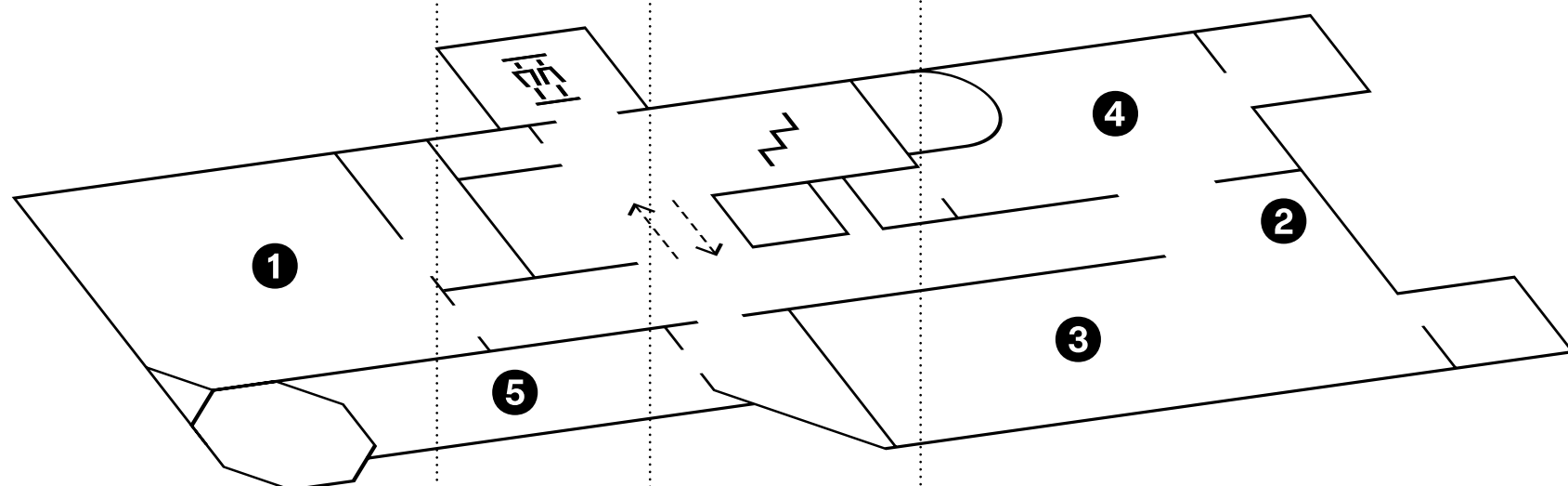
4F 立ち上がる人々

- ① 平凡な人の特別な物語
- ② 22歳の鍾哲と1987
- ③ 証言



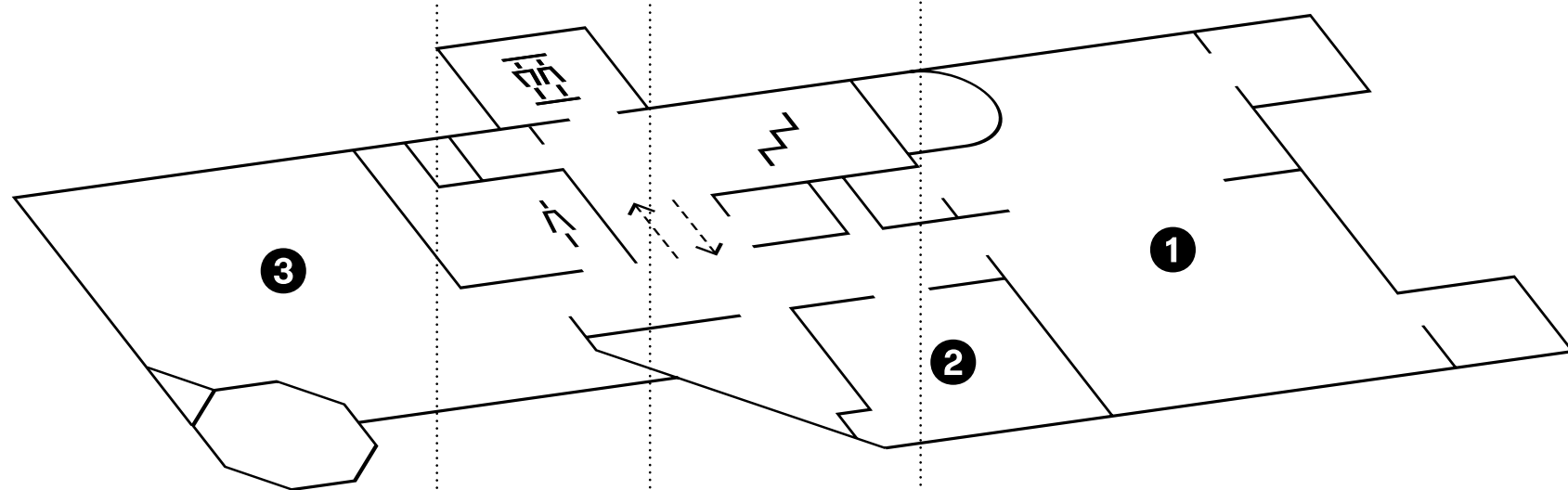
3F 国家暴力の加害者

- ① ベールの向こうの声
- ② 見えざる目(監視カメラ)
- ③ 対共部署
- ④ 黒いレンガの秘密
- ⑤ 班長室



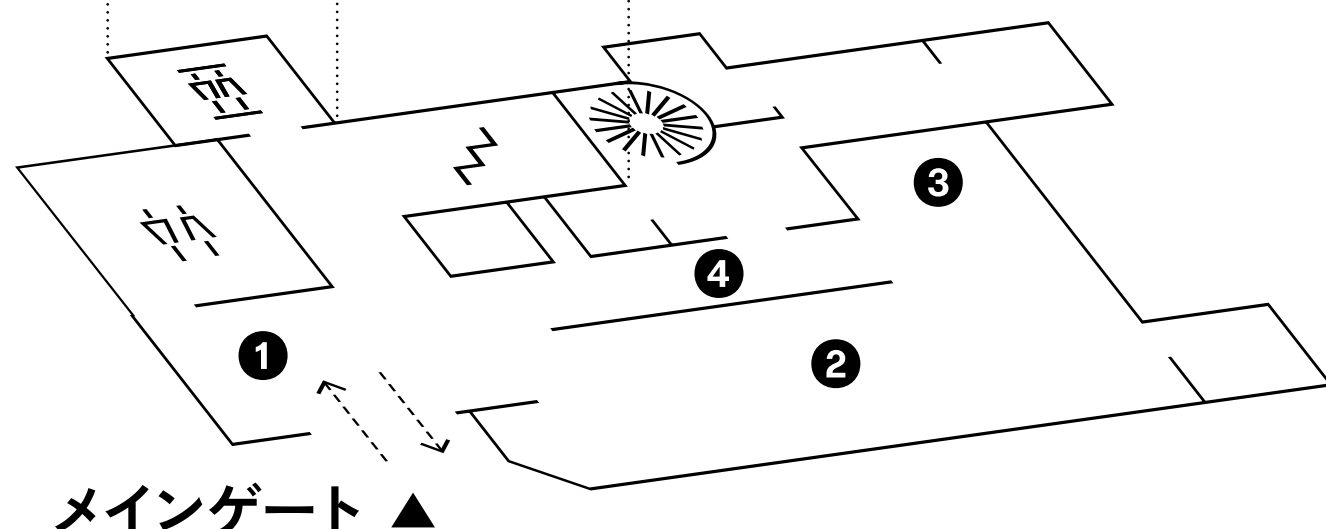
2F 捏造された場面

- ① 奪われた日常
- ② 失われた時間
- ③ 事件



1F あの日の記憶

- ① 大韓民国憲法第12条
- ② 1987年、私と君の記憶
- ③ 場面の向こう
- ④ その日が来れば
- ▲ メインゲート



大韓民国は民主共和国である。

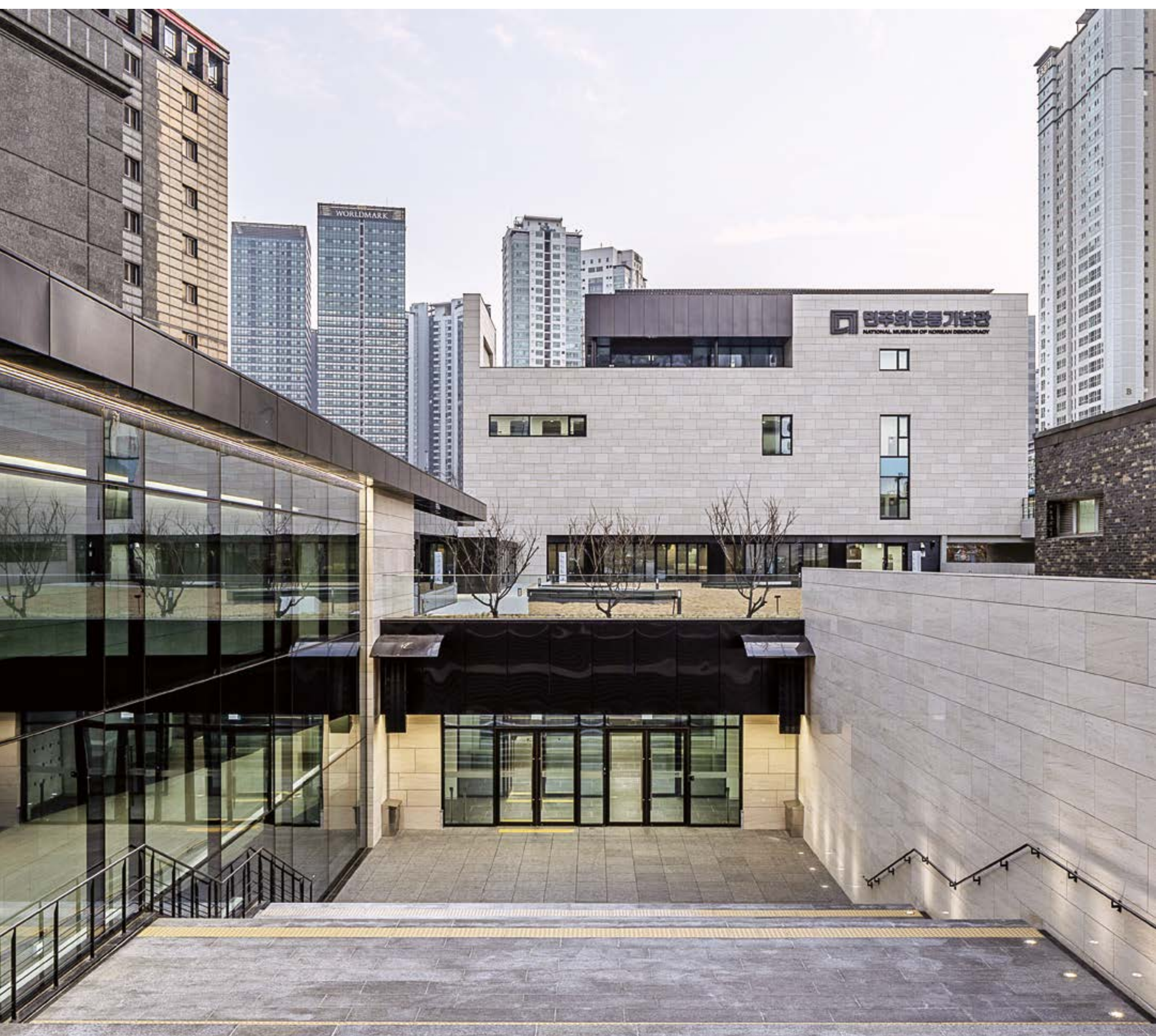
大韓民国の主権は国民にあり、

全ての権力は国民から生ずる。

大韓民国憲法第1条

M1 | 記念館 Museum ①

「歴史と向き合う低い視線」という意味を込めて設計された空間であり、地下2階から地上1階にかけて、韓国の民主化運動の歴史と民主主義の価値を、展示と体験コンテンツを通じて紹介する。常設展と特別展、参加型メディア展示を通じて来館者が民主主義の意味を立体的に理解できるように構成されている。



韓国の民主化運動①

韓国の民主化運動①では国の法定記念日を含め、民主化運動記念事業会法と施行令で定められている11の民主化運動の歴史的出来事を取り上げる。李承晩(イスンマン)から朴正熙(パクジョンヒ、維新)、全斗煥(チョンドゥファン、新軍部)政権にかけての民主化運動の歴史を時系列で紹介する。

1960

民主主義の偉大なる勝利、4・19革命



1960
2・28民主運動



1960
3・8民主義挙



1960
3・15義挙



1960
4・19革命

1964-1979

維新体制に立ち向かう 絶え間ない抵抗



1969
三選改憲反対運動



1964
6・3韓日会談反対運動



1979
釜馬民主抗争



1980
5・18民主化運動

1983-1987

大韓民国における民主主義の歴史の転換点、6・10民主抗争



1987
6・10民主抗争



1974
維新憲法反対運動

1980

ああ！光州よ、 我々の民主主義よ！



1986
仁川5・3民主抗争

M1の展示観覧のポイント：特別ドーセント
韓国の民主化運動 ①、②で行われる特別ドーセントでは、ダイナミックなグラフィックとダンサーの動きにより民主化運動の歴史をありありと感じ取れるパフォーマンスを披露する。

——→ 特別ドーセント Click

韓国の民主化運動②

韓国の民主化運動②では学生、在野・宗教・国際連帯、労働、農民・貧民、言論・教育・文化、女性など、民主主義の発展に尽力した様々な社会主体を中心にした民主化運動の歴史を振り返る。

民主化運動の旗印、学生



1960

第2回馬山義挙当時、女子学生らのデモを封じ込めている警察

社会・経済的平等を求めて、労働



1985

求社隊の暴行により全身があざだらけになったソニル線維の労働者

制度の外からの叫び、在野・宗教・国際連帯



1986

明洞聖堂の前で座り込みを行う在野人らと、これ取材する記者ら

男女が平等な民主社会のための道のり、女性



1987
労組の結成などを認めてもらうために制服姿で座り込みを行うロッテショッピングの労働者ら

生存権の闘争から 民主化運動へ、農民・貧民



1988
民正党本部の前でトウガラシが入った袋を積み上げて座り込みを行う農民ら

思想と表現の自由を求めて、 言論・教育・文化運動



1989
拘束された文人・出版人の釈放を求めて街頭デモを行う民族文学作家会の会員ら

民主の記憶

30台のLCDタッチスクリーンを来館者が自ら操作し、民主化運動の歴史が詰まった場所、物、歌に関する映像を観ることができる。それぞれに宿る民主化運動の意味と価値を考えさせられる。



場所の記憶

1. 明洞聖堂
2. セシルレストラン
3. 鐘路5街キリスト教会館
4. 高等学校
5. 大学校
6. 馬山港中央埠頭
7. 産業宣教会、夜学
8. 東一紡織、YH貿易
9. 全日ビル
10. 円覚寺
11. 掘っ立て小屋
12. ソウル駅
13. カトリック原州教区
14. 広場
15. アジト
16. 炭鉱
17. 元豊毛紡の労働組合
18. 平和市場

物の記憶

1. タクシー
2. 投票用紙
3. ビクトリーショール
4. ネクタイ
5. 大字報
6. ヒトリガ
7. ビラ、プラカード
8. 太極旗
9. ガリ版謄写機
10. 運動靴
11. さつまいも、じゃがいも
12. 花
13. カメラとテープ

歌の記憶

1. 友
2. 朝露
3. 常緑樹
4. この世のどこかに
5. 小さな池
6. 千里道
7. 火の蝶
8. 想い人のための行進曲
9. 友よ、解放が来る
10. 奪われた野にも春は来るのか
11. 四季
12. あの日がくれば
13. 青山に大声で呼ばれたら
14. 労働の明け方
15. 松よ、蒼い松よ
16. 広野で
17. 顔を曇らせないで
18. 人が花より美しい
19. テレホンカード1枚
20. 希望の歌

民主の昨日、そして明日

20世紀を生きた歴史的人物の言葉から民主主義の核心的価値である「自由」と「平等」を探求し、民主主義とは何かについて来館者自らが答えを見出せるようにしている。





記憶の壁

この壁には2001年の「民主化運動関連者の名誉回復及び補償などに関する法律」により民主化運動関連死亡者と認められた136名の名前が刻まれている。

記憶の通路

Passage of Memory

全英一(チョンヨンイル)、2024

旧南営洞対共分室へと続く通路に設置されたこの作品は、「南営洞対共分室での拷問の実態に関する調査」により確認された約400名の被害者と未だ明らかにされていない人々を象徴している。

大韓民国憲法第12条第2項

刑事上自己に不利な陳述を

強要されない。

旧南営洞対共分室
軍事独裁政権に抗う
無実の市民を連行し
てきては人間の尊厳
を抹殺する人権蹂躪
の現場だった。

全ての国民は拷問を受けず、

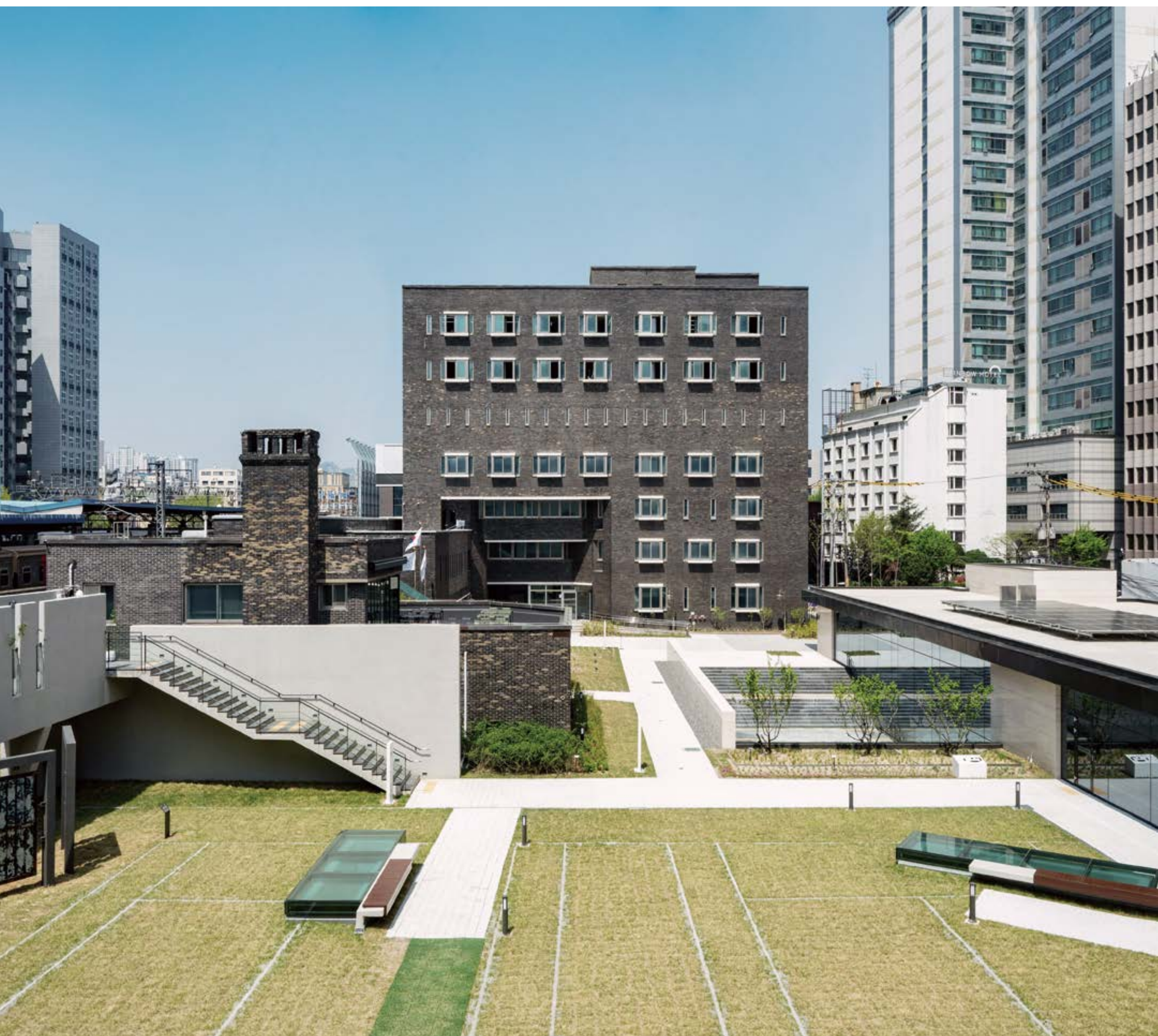
M2 | 記念館 Museum ②

旧南営洞対共分室の建物を保存・利用した空間であり、地上1階から5階まで、調査室と展示スペースを辿りながら国家暴力の現場に向き合い、民主主義の意味について見つめ直すことができるように構成されている。

M2の展示観覧のポイント：サウンドスケープ

M2の至る所に設置された204個のスピーカーから流れる様々な位相の音により、当時の雰囲気と記憶を立体的に体験できる。

——→ サウンドスケープ Click





5F 調査室

- ① 調査室の廊下
- ② 510号室(マイクの部屋)
- ③ 515号室
- ④ 504号室(赤い部屋)
- ⑤ 511号室(黄色い部屋)
- ⑥ 509号室(パク・ジョンチョル調査室)



4F 立ち上がる人々

- ① 平凡な人の特別な物語
- ② 22歳の鍾哲と1987
- ③ 証言



3F 国家暴力の加害者

- ① ベールの向こうの声
- ② 見えざる目(監視カメラ)
- ③ 対共部署
- ④ 黒いレンガの秘密
- ⑤ 班長室



2F 捏造された場面

- ① 奪われた日常
- ② 失われた時間
- ③ 事件



1F あの日の記憶

- ① 大韓民国憲法第12条
- ② 1987年、私と君の記憶
- ③ 場面の向こう
- ④ その日が来れば

あの日の記憶

1970-80年代の軍事独裁政権は国の安全保障を口実に統治の正当性を確保しようとしていた。政治の山場を迎えるたびに間諜あるいは間諜団事件を発表し、政権に歯向かう者を標的にして法令を制定・公布した。監視と処罰が日常化していた時代だった。しかし、暗闇の中でも民主主義を目指す国民の熱い叫びは絶え間なく続いた。



❶ 大韓民国憲法第12条
かつては国民の命と財産を守る目的のために物理的な統制手段を合法的に与えられた軍隊や中央情報部(安全企画部、今の国家情報院)などの情報機関はもちろんのこと、「民衆の杖」と呼ばれた警察までが憲法を徹底的に無視していた。

❷ 1987年、私と君の記憶
1970-80年代の大韓民国は統制と抑圧が日常化していた。しかし1987年、統制と抑圧のしがらみから抜け出し、国民が主人である国を築き上げるべく取り組んでいた人々がいた。映像を通して1987年の彼らが今日の私と出逢って「私たち」になる。

❸ 場面の向こう
軍事独裁の時代に間諜は確かに実在していた。当時、ニュースでは「北傀」「固定間諜団」「反国家団体」などの言葉を用いて間諜行為を報道していた。しかし、後に数回に渡る裁判で多くの事件が拷問により捏造されていたことが明らかになった。

❹ その日が来れば
1987年6月10日は息を潜めて生きてきた日々を乗り越え、正義の実現を声高に叫んだ日だった。

捏造された場面

軍事独裁政権は国の安寧と安全保障のためという名目で公然と間諜捜査を行った。独裁政権に忠誠を誓った加担者らは対共捜査専門組織を立ち上げ、なりふり構わず成果を上げようと血眼になっていた。その行為は無実な市民の犠牲に繋がった。1970年代に入ってから「摘発した間諜」より「仕立て上げられた間諜」のほうがより多くなった。

5F



4F



3F

① 奪われた日常

軍事政権時代には平凡な日常を過ごしていた無実な市民も一日にして「間諜」に仕立て上げられることがあった。「三陟固定間諜団事件」と「民主化運動青年連合(民青連)事件」を通して至難な真相究明の過程を見つめるとともに、韓国の民主化運動の歴史の傷跡を振り返る。

② 失われた時間

時針と秒針が進まない時計により事件に巻き込まれた被害者の止まってしまった時間を表現している。

③ 事件

独裁政権は北朝鮮の脅威を盾に無数の間諜事件をでっち上げた。拷問や過酷行為及び強制連行、不法拘禁により捏造された事件の真相は1987年の民主化以降明るみに出始めた。2000年代に入ってから再審が行われ被害者に無罪判決が立て続けに下され、国家賠償が進められている。

2F

1F

国家暴力の加害者

独裁政権を維持するために国民を抑圧・統制していた国家体制の歯車だった加害者らは緻密で組織的だった。中央情報部、安全企画部、保安司令部、警察と検察などの情報捜査機関が動員され、対共捜査はより強化・拡大された。民主化以降、数々の証言により真実が明るみに出ているにもかかわらず、かつての国家暴力の加害者らは未だ「国の安全保障のためには致し方ないことだった」と言い訳を並べている。



5F

4F

3F

2F

1F

① ベールの向こうの声

拷問と捏造の第一線で働いた国家暴力の加害者らの身分は徹底的に秘匿されていた。独裁政権の積極的な庇護の下、非人間的な監視と暴力を行使した彼らは、未だ誠意のある反省を示していない。長い時間が経ったものの、ここで何が行われていたか、具体的な真実は明らかにされていない。

② 見えざる目(監視カメラ)

調査を受けた被害者は厳しい監視下に置かれていた。調査室には一挙手一投足を捉えるためのカメラとマイクが取り付けられ、全てを記録していた。身体的苦痛を与えるだけではなく、相手を心理的に委縮させ人格的破滅に追い込む高度の作戦だった。

③ 対共部署

日本からの解放後、真っ先に情報機関を設立したのは軍隊と警察組織で、5・16軍事クーデター以降は情報を専担する中央情報部が設置された。独裁が長期化するほど、それぞれの対共部署は強化・拡大されていった。「組織」という盾に隠れて国民を全方位的に監視した。

④ 黒いレンガの秘密

対共分室は「対共捜査」という目的に合わせて緻密に設計された。監視と調査、物理的拷問にもっばら特化した設計と配置になっている。

⑤ 班長室

班長室は外の景色を一望できる場所に設けられた。設計図にはくつろげるソファ4台とベッドが配置されていた。自分たちの日常は守り抜く一方、他人の日常を奪い去った、同じ時代に全く違う人生を生きた人々の空間だった。

立ち上がる人々

長らくベールに包まれていた南営洞対共分室が対外的に知られ始めるようになったきっかけは1985年の金槿泰(キムグンテ)拷問事件と1987年の6・10民主抗争の導火線となった朴鍾哲(パクジョンチョル)拷問致死事件である。朴鍾哲をはじめ6・10民主抗争の記録や厳しい時代に苦痛のさなかでも一縷の希望を捨てずに生きていた人々の特別な物語に迫る。

5F

4F

3F

2F

1F



❶ 平凡な人の特別な物語

国によって間諜に仕立て上げられた人々は大切な人生を丸ごと奪い去られてしまった。しかし、彼らは苦痛の日々の中でも人生を花咲かせ夢を抱いた。時には仲間が、時には何気ない物が回復への架け橋になってくれた。

❷ 22歳の鍾哲と1987

1987年1月14日の朴鍾哲拷問致死事件を機に大統領直選制への憲法改正と政権打倒を求める声はさらに高まった。その勢いは6・10民主抗争に繋がり、その後、大韓民国は長期の権威主義の軍部統治を脱して民主化へ突き進む歴史的転換を成し遂げた。

❸ 証言

対共分室をはじめ当時国家暴力機関で行われた拷問と抑圧は、無数の被害者の口頭によるインタビューや陳述により明るみに出た。被害者が経験した当時の惨状と苦痛、そして消し去ることのできないあの日の記憶を一緒に見つめる。

5階 調査室、そして南宮洞対共分室

軍事独裁政権下で使われていた各機関の調査室の中で唯一現場が保存されている。普通地下に設けられた他の情報機関の調査室とは違って、地上5階に位置している。15室ある調査室(建築当時は18室)のドアには階数は無く、部屋番号だけが小さく書かれている。1970年代に建てられたものとは思えないほど精巧な施設、その全てはたった1つの目的を叶えるため完璧に設計されたものだった。

5F

4F

3F



5階 調査室

5階には15の調査室があり、全てのドアは向かい側の部屋から見えないように設計されている。

便器と洗面台、浴槽

調査室の中には浴槽と洗面台、便器が設置されている。ここは調査を行う空間と分離されておらず、監視カメラにさらされていた。

ドアスコープ

全てのドアに取り付けられた小さなレンズは外から室内を覗くためのものである。室内に閉じ込められている調査対象者の様子を、捜査官が監視できるように設けられていた。

調査室の廊下の調光器

調査室の廊下にある調光器で調査室の照明の電源はもちろん明るさまで調整できた。調査室に閉じ込められた被害者は時間の感覚を完全に失ってしまった。

1F

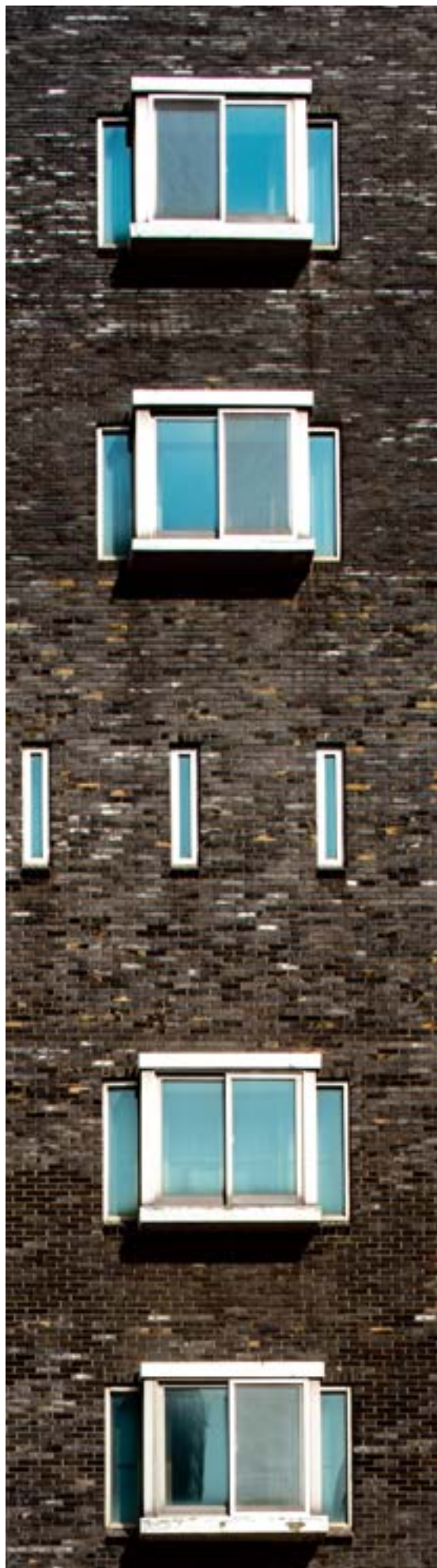
5F

4F

3F

2F

1F



狭い窓

5階の調査室の窓は他の階とは違って幅が狭くて長い形をしている。拷問を受ける被害者の脱出もしくは自害を防ぐための仕掛けだった。



建物裏手の出入り口

裏側の窓はいずれも幅が狭く、外からは内部の状況を窺い知ることができなかった。裏口は連行してきた人々を中へ通すためのもので、護送用の小さな昇降機と螺旋階段へと続く。



螺旋階段

螺旋階段は調査室のある5階としか繋がっていない。目隠しをされたまま連れていかれると、何階へ向かっているのか察することができなかった。鉄の階段に響く音は恐怖を増幅させ、円形の階段は空間感覚を失わせた。



鉄門

南営洞対共分室の入り口の扉は分厚い鉄製で、連れてこられた人々は激しい恐怖に駆られたまま扉をくぐらされた。



見える収蔵庫：オープンアーカイブ窓

民主化運動記念事業会は約90万件の民主化運動の史料を収集・管理している。民主化運動記念館では地下2階の収蔵庫と地下1階の見える収蔵庫を設けて史料を保存している。オープンアーカイブ窓では民主化運動に関する主要史料を窓越しに見学できる。

——→ オープンアーカイブ窓 Click
archives.kdemo.or.kr



寄贈者の壁

寄贈者の壁は2001年より民主化運動の史料を寄贈してくれた個人や団体を記録した壁である。延べ758名の寄贈者が名を連ねている。(2024年12月31日現在)

民主化運動の精神を受け継ぎ、民主主義の発展に貢献するために様々な教育プログラムを運営している。対象に合わせたプログラムによって民主主義の価値と歴史をわかりやすく説き、市民と専門家が共にする学習の場を設けて社会的連帯と公論の文化を広げている。



4F 民主マル

民主マルは民主化運動の歴史や民主主義に関する国内外の図書、写真、映像の展示などを通して民主主義の価値を「見て」「読んで」「分かち合う」開かれた空間である。



教育プログラム

大人向け	青少年(中高生)向け
・ 国際民主主義デー記念民主主義講演会 ・ 記念館市民講座 ・ 教員の研修 ・ 専門家教育課程	・ 青少年社会参加発表大会 ・ 青少年民主主義プログラム ・ 展示・教科連携プログラム ・ 進路体験プログラム ・ 青少年民主主義現場体験プログラム
子供(小学生)・家族向け	アクセシビリティの向上及びコンテンツの普及
・ クラス団体・個人プログラム ・ 家族プログラム ・ 自己主導プログラム	・ 展示解説プログラム ・ 障害者のアクセシビリティ向上プログラム ・ 外国語対応プログラム ・ 学校民主主義プログラム ・ 民主化運動に関する契機教育の資料・映像

——→ [教育プログラムのお申し込み Click](#)

民主化運動記念事業会

民主化運動記念事業会は韓国民主主義の発展の中心的な原動力であった民主化運動の精神を継承・発展させるべく、2001年に国会で制定された「民主化運動記念事業会法」により設立され、2007年には行政安全部傘下のその他公共機関に指定された。



主要事業

- ・民主化運動記念館の運営
- ・民主化運動記念公園の運営
- ・民主化運動の記念・交流
- ・民主主義教育の運営
- ・史料の収集・管理
- ・学術研究
- ・国際協力

16029 京畿道 義王市 内蓀循環路 132

T +82-31-361-9500

F +82-31-361-9576

——→ [公式サイト Click kdemo.or.kr](#)

民主化運動記念公園

民主化運動記念事業会は、京畿道利川(イチョン)市に所在する民主化運動記念公園(2016年6月開園)を2023年より委託管理しており、墓所の管理、合同追悼式の開催、展示・教育プログラムの運営を行っている。



主要事業

- ・民主烈士追悼事業
- ・民主化運動関連展示の企画・運営
- ・教育・体験プログラムの運営

開園時間

夏季(3月~10月): 09:30~17:30

冬季(11月~2月): 10:00~17:00

毎週月曜日、1月1日、旧正月・秋夕連休は休園日

ただし、展示館以外の墓所や民主広場などの屋外スペースは年中無休(09:00~18:00)

観覧料は無料

17406 京畿道 利川市 暮加面公園路 30

T +82-31-8011-9710

F +82-31-8011-9709

——→ [公式サイト Click minjupark.or.kr](#)

開館時間

火曜日～日曜日 10:00～18:00
(入館締切 17:00)

休館日

毎週月曜日、1月1日、旧正月・秋夕の当日

観覧料

無料

アクセス

地下鉄

1号線「ナミョン駅」1番出口

4号線「スクデイク駅」7番出口

6号線「サムガクチ駅」10番出口

*駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

民主化運動記念館

ソウル市 龍山区 ハンガンデロ71ギル37
T +82-2-6440-8900